

所沢市財政トークス



第17号「25年度決算」
所沢市財務部財政課発行
平成26年10月

～平成25年度決算の概要をお知らせします～

平成25年度の所沢市の普通会計決算額は…

歳入：915億970万円

歳出：873億837万円

でした。

平成25年度の普通会計決算額は、前年度に比べ歳入が1.1%の増、歳出が0.3%の減となりました。歳入歳出差引額は42億133万円で、こちらは前年度に比べて約12億2,594万円の増となっています。

※決算額等は決算カードの数値を用いています。決算カードは市HPでご覧になれます。

所沢市決算カード

検索

決算って何？



予算を1年間どのように使ったのか、実績を示し確認することを『決算』といいます。

※普通会計とは、各自治体の財政状況を容易に比較できるように用いられる会計区分で、全国共通の計算方法により集計します。所沢市の会計で考えると、

【普通会計】＝「一般会計」＋「下水道事業会計の一部」＋「土地区画整理特別会計」となります。

※財政トークスでは、普通会計決算額を引用しているため、一般会計決算額とは、一致しません。

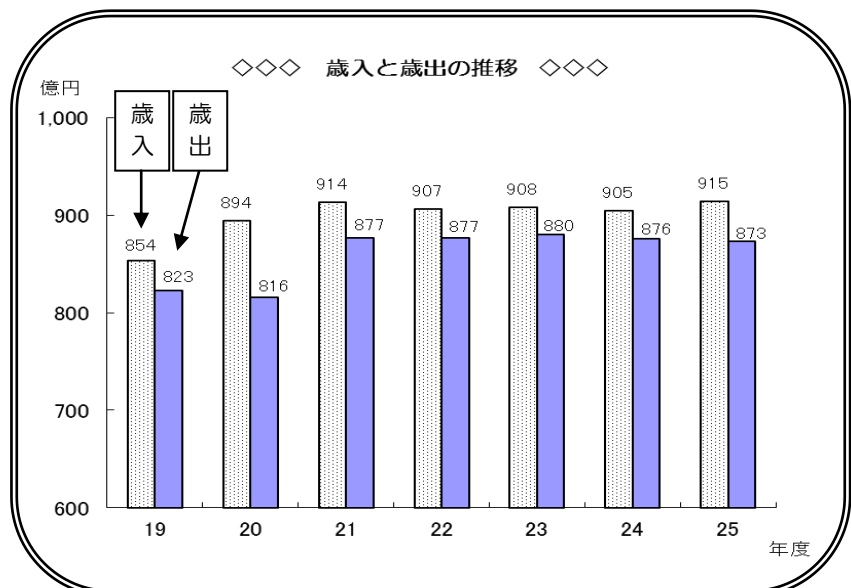
1 決算額の推移

《年度別決算額の推移》

年度別の決算額をみると、各年度とも歳出総額より歳入総額が上回っています。

その差額から翌年度に繰り越すべき財源（やむを得ない事由により、年度内に支出が終わらず、翌年度に繰り越して支出すべき事業の財源）を除いた金額を実質収支と言います。

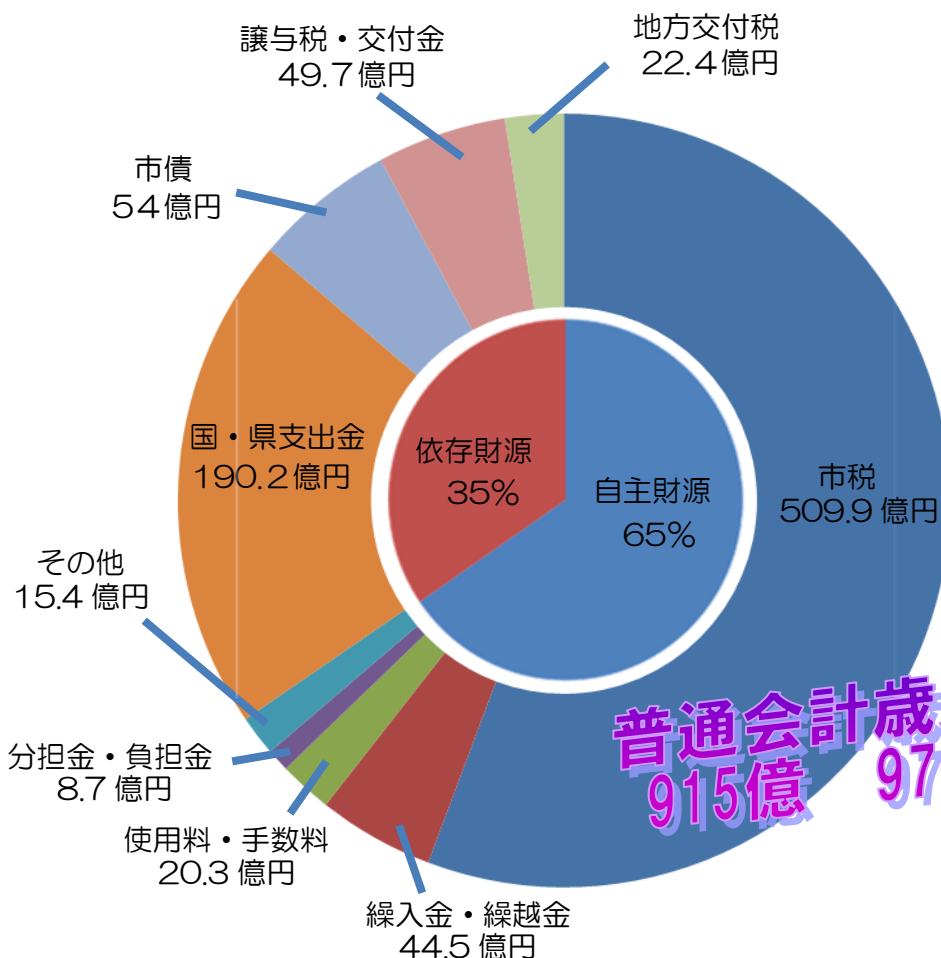
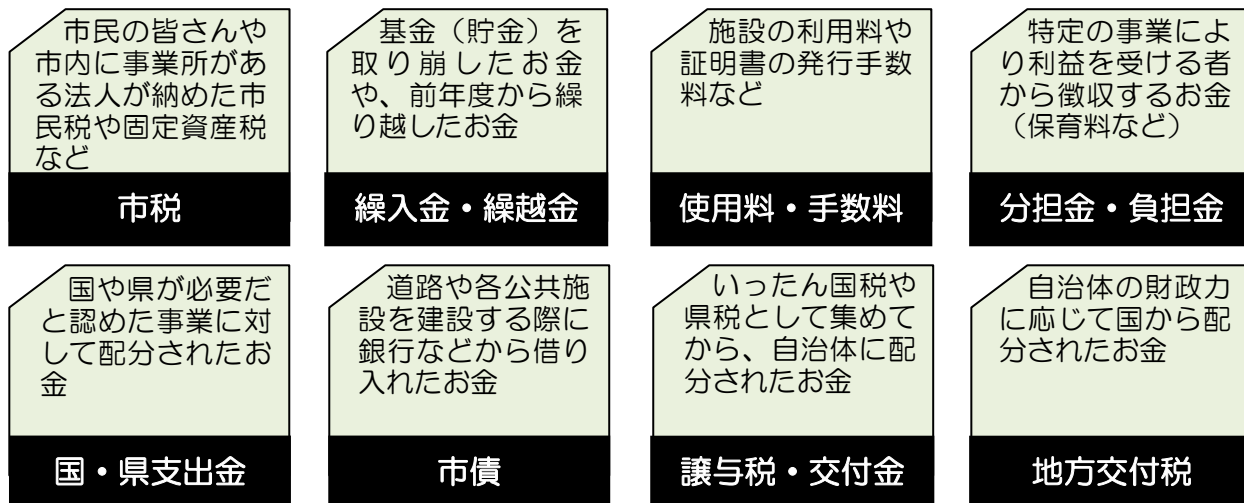
実質収支は、基金に積み立てるなどして、翌年度以降の財源の一部となります。



2 歳入の概要

歳入の内訳

歳入は、市税のほか、国・県からの補助金、市債などがあります。平成24年度と比較すると、「市税」は約4.4億円の増となり、全体では、約9.6億円の増となりました。市税が増となった要因は、固定資産税、市たばこ税などの増が挙げられます。



ポイント

歳入は「自主財源」と「依存財源」に分けられます。「自主財源」の割合が高いほど、市独自の事業を安定的にかつより多く行うことができます。

普通会計歳入総額
915億 970万円



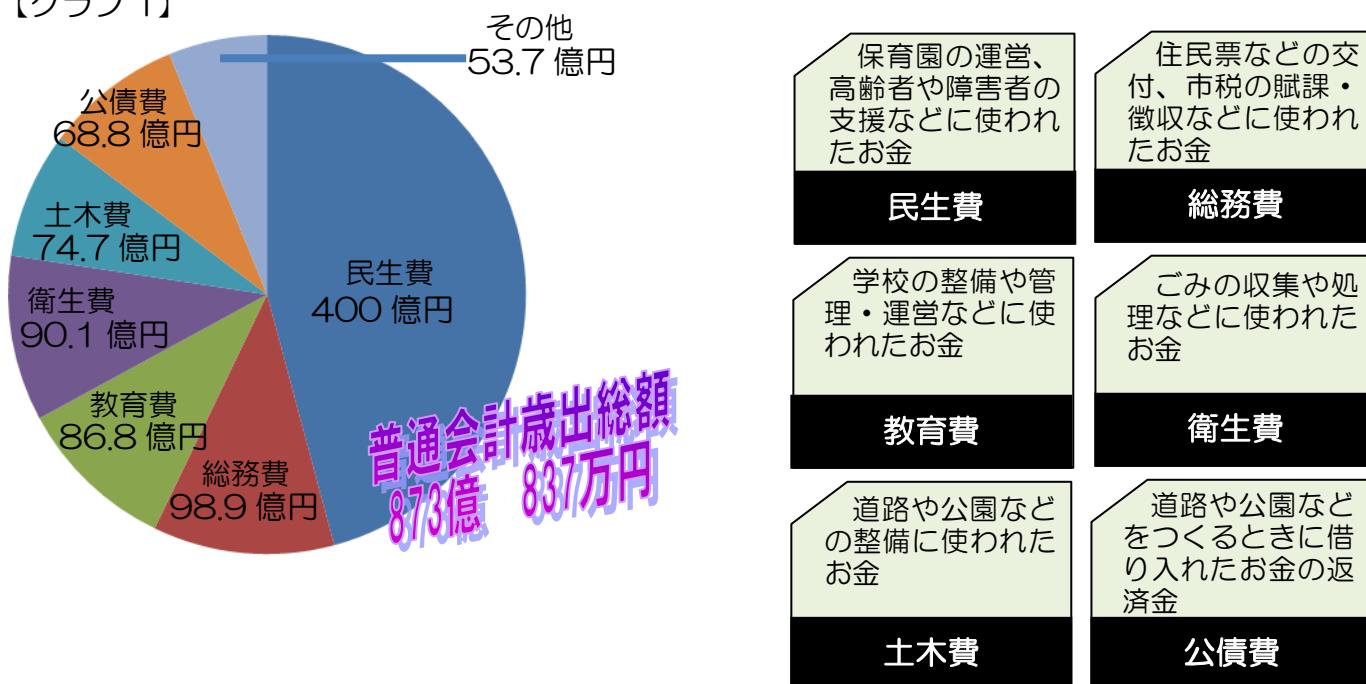
3 歳出の概要

(1) 目的別歳出の内訳

歳出は「目的別」と「性質別」の二つの側面から分析できます。それぞれ内訳は表1・表2のとおりです。

どんな分野に費用を要したか示す目的別歳出（表1）をみると、「民生費」が全体の4割以上を占めていることがわかります。決算額も前年から約6.8億円増となりました。増の要因には障害者支援費（約3億円増）、仮称総合福祉センター建設費（約1億円増）などが挙げられます。「民生費」の多くを「扶助費」が占めているため、性質別歳出（表2）でも「扶助費」の増が見られます。また、街区公園用地購入費や道路築造事業費の増などにより土木費が前年より約9.6億円増となりました。

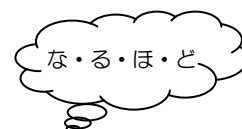
【グラフ1】



【表1】

◇◇◇ 目的別歳出 ◇◇◇

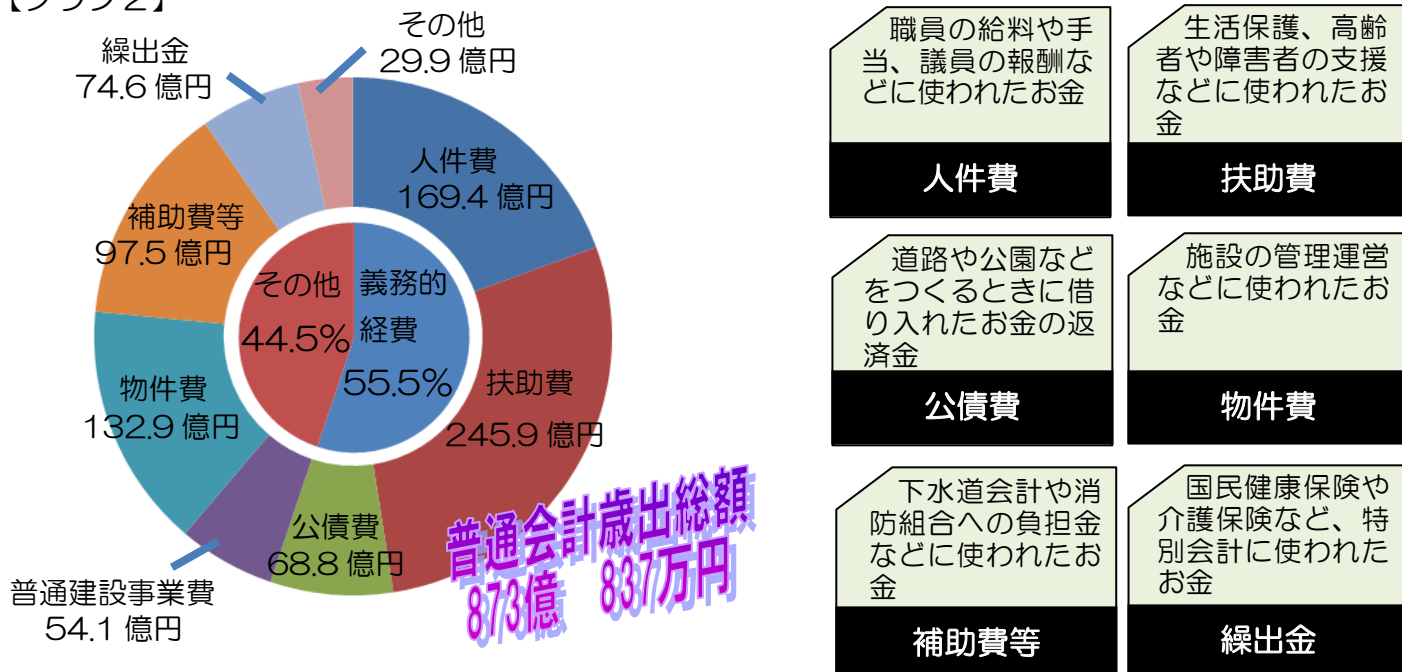
| 区分 | 平成25年度 | | 平成24年度 | 前年度比 増減額 |
|-----|------------|--------|-------------|-------------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | |
| 民生費 | 400億 390万円 | 45.8% | 393億2,114万円 | 6億8,276万円 |
| 総務費 | 98億8,700万円 | 11.3% | 102億3,139万円 | ▲3億4,439万円 |
| 教育費 | 86億8,499万円 | 9.9% | 89億6,524万円 | ▲2億8,025万円 |
| 衛生費 | 90億 836万円 | 10.3% | 91億5,598万円 | ▲1億4,762万円 |
| 土木費 | 74億7,026万円 | 8.6% | 65億 194万円 | 9億6,832万円 |
| 公債費 | 68億7,896万円 | 7.9% | 73億2,594万円 | ▲4億4,698万円 |
| その他 | 53億7,490万円 | 6.2% | 60億7,016万円 | ▲6億9,526万円 |
| 合計 | 873億 837万円 | 100.0% | 875億7,179万円 | ▲2億6,342万円 |



(2) 性質別歳出の内訳

決算額を用途ごとに区分した「性質別」で見ると、毎年度必ず支出しなければならない義務的経費（人件費・公債費・扶助費）が全体の半分以上を占めています。近年の傾向では、人件費は年々減少しており、公債費も横ばいか、やや減少傾向にあります。一方で、扶助費については、依然として増加しています。

【グラフ2】



【表2】 ◇◇◇ 性質別歳出 ◇◇◇

| 区分 | 平成25年度 | | 平成24年度 | 前年度比増減額 |
|---------|-------------|--------|-------------|-------------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | |
| 人件費 | 169億4,245万円 | 19.4% | 205億426万円 | ▲35億6,181万円 |
| 扶助費 | 245億9,477万円 | 28.2% | 243億6,331万円 | 2億3,146万円 |
| 公債費 | 68億7,896万円 | 7.9% | 73億2,594万円 | ▲4億4,698万円 |
| 普通建設事業費 | 54億999万円 | 6.2% | 66億718万円 | ▲11億9,719万円 |
| 物件費 | 132億8,536万円 | 15.2% | 136億1,444万円 | ▲3億2,908万円 |
| 補助費等 | 97億5,092万円 | 11.2% | 36億6,617万円 | 60億8,475万円 |
| 繰出金 | 74億5,516万円 | 8.5% | 88億8,504万円 | ▲14億2,988万円 |
| その他 | 29億9,076万円 | 3.4% | 26億545万円 | 3億8,531万円 |
| 合計 | 873億837万円 | 100.0% | 875億7,179万円 | ▲2億6,342万円 |

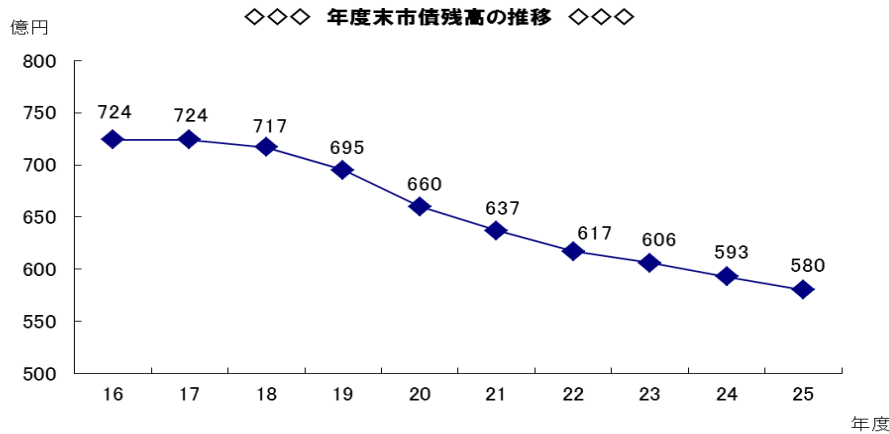
ポイント

義務的経費などの經常経費の割合が大きくなると、新しいサービスや公共施設の建設などが難しくなります。

性質別をもう少し詳しくみて行くと、最も増えているのが補助費等で、前年より60.8億円も増えています。一方で、最も減っているのが人件費で35.6億円も減っています。これは、平成25年度から消防が一部事務組合化したことに伴い、職員給は減少しましたが、形を変え負担金（補助費等）として歳出したことが主要因となっています。さらに、補助費等については、下水道特別会計が公営企業会計へ移行したことにより負担金として歳出することとなったため、大幅に増えています。

4 市債と公債費

今回は、市債（道路や各公共施設を建設する際に市が借り入れたお金）と公債費（市債の返済金）に焦点を絞り、参考までに人口が同規模の川越市、越谷市を取り上げてみました。



特に近年は、次世代に過度な負担を残さないように配慮し、市債の発行を管理していることから、所沢市の市債残高は、年々減少し、平成16年度末と比べると平成25年度末では、約144億円減の580億円となりました。

【表3】 ◇◇◇ 他市との比較 ◇◇◇

表3は、市全体でいくらの借金があり、住民一人当たりには換算するといくらになるか、また、その借金を年間いくら返済し

| 平成25年度 | 所沢市 | 川越市 | 越谷市 |
|------------------|------------|-------------|-------------|
| 人口(平成26年3月31日現在) | 338,597人 | 348,723人 | 332,745人 |
| 地方債年度末現在高 | 580億226万円 | 910億8,613万円 | 745億2,647万円 |
| 住民一人当たり額 | 17.1万円 | 26.1万円 | 22.4万円 |
| 公債費 | 68億7,896万円 | 101億2,748万円 | 90億1,102万円 |
| 住民一人当たり額 | 2.0万円 | 2.9万円 | 2.7万円 |

(数値は各市決算状況調より)

て、一人当たりには換算するといくらになるかを示した表です。つまり、所沢市は、住民一人当たり17.1万円の借金を背負っており、1年度当たり2万円を返済していることとなります。

その市の方針や実情もあり、一概には言えませんが、今回取り上げた市と比べると、数字上は、借金が少ないと言えます。

おわりに。。。

今回の財政トークスでは、25年度決算の概要についてお知らせしました。本文では触れていませんが、所沢市の財政状況は引き続き健全な状態が保たれています。(健全化判断指標については、市ホームページなどでご紹介しています。)

今後も、社会保障経費の増加や老朽化した公共施設の修繕など、多額の財政需要が見込まれ、大変厳しい状況が続きますが、限られた財源を効果的・効率的に活用して、健全な財政運営と市民生活の更なる向上を目指してまいります。

